

東京音楽大学におけるオンライン英会話プログラムの導入とその教育的効果の検証

著者	大和田 和治
雑誌名	研究紀要
巻	39
ページ	53-66
発行年	2016-02-15
出版者	東京音楽大学
ISSN	0286-1518
URL	http://id.nii.ac.jp/1300/00001032/



東京音楽大学におけるオンライン英会話プログラムの導入と その教育的効果の検証

大和田和治

1 はじめに

本稿の目的は、東京音楽大学における正規の授業外のオンライン英会話プログラムの教育的効果を、質問紙調査とスピーキングテストによって検証することにある。以下では、最初に、本大学の学生のおよその英語力を明らかにするために、これまで行われてきた英語外部試験の結果を述べる。次に、オンライン英会話プログラムの概要と受講生に実施した質問紙調査の結果について述べる。そして最後に、オンライン英会話プログラムを受講することによりスピーキング力が向上するかを、スピーキングテストの結果に基づき考察する。

2 英語外部試験からみる東京音楽大学の学生の英語力

2.1 VELC Test からみる学生の英語力（2013年度）

東京音楽大学では、全学部生を対象にした能力別クラス分けテストであるプレイスメントテストや英語力測定のための英語外部試験¹はこれまで行われてこなかった。そのため、本大学の学生の英語力を他大学や一般の英語学習者の英語力と客観的に比較することができない状況が続いていた。

そこで、本大学の学生の英語力を調査するために、2013年10月から12月の間に、筆者が任意に選んだ、英語科目6クラスの学生計63人および希望者11人の合計74人にVELC Testを受験させた。

VELC (Visualizing English Language Competency) Test は、日本人大学生のために開発された、リスニングとリーディング各60問から成る計120問のマークシート方式の英語力診断テスト(試験時間70分)である。VELC Test の点数から TOEIC 総合点の予測点数も算出される²。

1 さまざまな英語外部試験については、英語4技能試験情報サイト (<http://4skills.eiken.or.jp/>) を参照のこと。

2 この TOEIC 総合点の予測点には平均して約85点の誤差が見込まれるという。詳しくは、<http://www.velctest.org/> を参照のこと。

本稿では、後に述べる TOEIC (IP テスト) と比較可能なように、VELC Test の点数から換算された TOEIC の予測点数に基づいて報告する。

本テストの結果の基本統計量を表 1 に示す。全学年の TOEIC の予測点数の平均値は 428.04 点、標準偏差は 96.27 点、中央値³は 420.0 点であった。

表 1. VELC Test (2013 年度) による TOEIC の予測点数の基本統計量 (N = 74)

	人数	最小値	最大値	中央値	平均値	標準偏差
1 年生	32	320	785	430.0	445.16	92.36
2 年生	20	260	695	370.0	394.50	90.10
3 年生	12	315	530	405.0	407.08	64.58
4 年生	10	305	645	422.5	465.50	133.68
全学年	74	260	785	420.0	428.04	96.27

以下の図 1 は、TOEIC の予測点数 (10～990) を 45 点ごとの階級に分けたヒストグラムである。最も人数が多い階級は 400～445 点で、22 人 (29.7%) となっている。以降、人数の多い順に、300～345 点の 15 人 (20.3%)、350～395 点の 12 人 (16.2%)、450～495 点の 11 人 (14.9%) となっている。全受験者 74 人中 61 人 (82.4%) は、250～495 点の範囲、つまり 500 点未満に収まっている。一方、600 点以上は 5 人 (6.8%) のみであった。

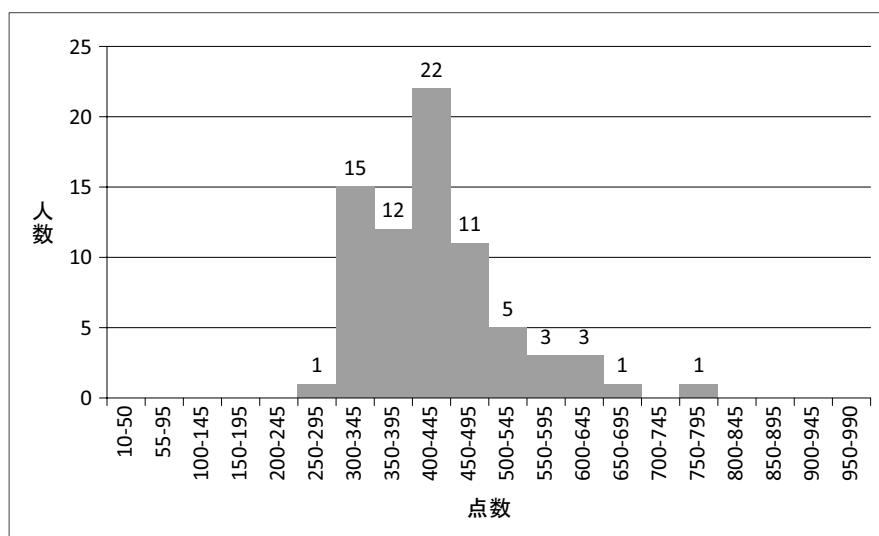


図 1. VELC Test (2013 年度) による TOEIC 予測点数のヒストグラム (N = 74)

3 中央値 (median) は、データを大きい順に並べたときに、ちょうど真ん中にくる値のことで、中央値より得点が高い人と低い人が半数ずついることを示す代表値のひとつである。データが偶数個あるときは、中央に近い 2 つの値の算術平均をとる。中央値は、外れ値や極値の影響をあまり受けず、左右対称でない分布のときにも有用である (岸, 2005 参照)。

次に、学年別の点数を中央値で比較するために、箱ひげ図⁴を図2に示す。学年ごとの人数が異なるため、比較には注意を要するが、中央値は、430.0点以下であることが読み取れる。全学年における最高点は、1年生がとった785点で、図2において極値(*)として、次に高い点は、2年生がとった695点で、外れ値(○)として示されている。

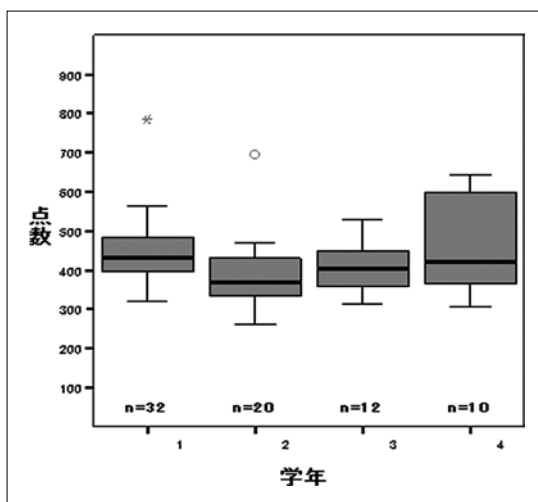


図2. VELC Test (2013年度) による TOEIC 予測点数の学年別箱ひげ図 (N = 74)

2.2 TOEIC (IP テスト) からみる学生の英語力 (2008 年度～ 2014 年度)

本大学では、毎年9月に TOEIC (IP テスト) を実施している。TOEIC には、一般向けの公開テストと社内・学内で実施される団体特別受験制度 (IP: Institutional Program) のテストの2種類あるが、本稿で扱うのは後者である。

TOEIC (トイーック) とは Test of English for International Communication の略称で、リスニング (45 分間・100 問) とリーディング (75 分間・100 問) の合計 200 問に答えるマークシート方式の英語能力テスト (試験時間約 2 時間) である。合否ではなく 10 点から 990 点までの 5 点刻みの点数で評価される⁵。

本大学では、この TOEIC (IP テスト) を 2008 年度から 2014 年度まで毎年希望者を募り、実施した。受験者は毎年減少しており、2008 年度は 39 人、2014 年度は 10 人であった。各年

4 本稿の箱ひげ図は SPSS10.0J による。箱ひげ図においては、箱の真ん中の太線が中央値、箱の上端は 75 パーセンタイル値 (第 3 四分位)、箱の下端は 25 パーセンタイル値 (第 1 四分位) である。箱から上に伸びているひげの上端は最大値、下に伸びているひげの下端は最小値である。SPSS では、外れ値や極値があった場合はそれぞれ○印や*印で示され、それらを除いて最大値と最小値が示される (酒井, 2004 参照)。

5 ここで言う TOEIC はリスニングとリーディングのテストである。他にスピーキングとライティングを測定する TOEIC S&W、英語初級・中級学習者を対象にした TOEIC Bridge がある。詳しくは、<http://www.toeic.or.jp/> を参照のこと。

度によって全受験人数は異なるが、毎年1年生から4年生までが受験した。各年度のテストの点数の基本統計量を表2、箱ひげ図を図3に示す。

表2. TOEIC-IP (2008年度～2013年度) の点数の基本統計量

	人数	最小値	最大値	中央値	平均値	標準偏差
2008年度	39	255	720	420.0	424.20	101.89
2009年度	34	195	730	420.0	407.60	119.91
2010年度	36	245	820	412.5	463.50	153.62
2011年度	19	340	875	450.0	498.90	143.32
2012年度	14	185	855	472.5	475.00	205.71
2013年度	16	160	945	470.0	506.30	209.76
2014年度	10	210	890	367.5	431.50	205.16

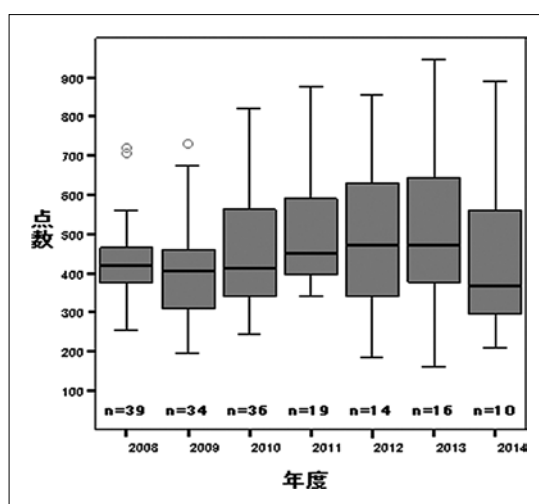


図3. TOEIC-IP (2008年度～2014年度) の点数の箱ひげ図

上の表2から、平均値は431.50～506.30点であることが分かる。なお、2013年度実施のTOEIC (IPテスト) の全国の大学生の平均は440点⁶となっている。

また、上の図3からも、中央値は367.5～470.0点の間にあることが確認できる。年度ごとに人数が異なるので正確に述べることはできないが、年々受験者間における点数の差が大きくなる傾向にあるといえる。特に、2013年度は、最小値が160点、最大値が945点となっており、点数の差が最も大きい。

6 詳しくは、『TOEIC® プログラム DATA&ANALYSIS 2014』 (<http://www.toeic.or.jp/press/2015/p042.html/>) を参照のこと。

以下では、これまで述べてきた本大学の学生の英語力を踏まえて、授業外オンライン英会話の導入とその教育的効果について述べる。

3 授業外オンライン英会話とその教育的効果

3.1 「英会話サプリ」の概要および導入の経緯

2015年度、本大学では、単位は取れないものの、正規の英語の授業以外に英語を学びたい学生を対象にeラーニング⁷の講座を開講した。開講した講座は、(株)リクルート社のオンライン英会話「英会話サプリ」⁸と(株)ニュートン社のeラーニングによるTOEIC®TEST対策A・Bコース⁹であった。本稿では、前者の「英会話サプリ」について述べる。

「英会話サプリ」は、フィリピン人の英語講師とSkypeを使って、主に自宅などで対面で英会話を練習するプログラムである。受講生は、最初にレベルテストを受け、自分のレベルにあったレッスン(1レッスンは25分)を受講する¹⁰。本プログラムを2015年度に導入したきっかけは、2014年度後期の10月から12月までモニターとして本大学の学生数名に受講してもらった結果、一定の学習効果が見込まれると筆者が判断したためである。2014年度の「英会話サプリ」は、6月～7月のコース(2か月間)、8月～9月のコース(2か月間)、10月～12月のコース(3か月間)の計3回開講された¹¹。

以下では、まず、「英会話サプリ」の受講生の実際の取り組み、次に、受講生への質問紙調査の結果、そして、効果検証のためのスピーキングテストの結果を報告する。

3.2 「英会話サプリ(2015年6月～7月)」受講生のレッスンの取り組み

2015年6月～7月の2か月間の「英会話サプリ」に申し込みをし、実際にレッスンを開始した学部を受講者は37人(全員女子)であった¹²。受講生各人の2か月間(8週間)における週平均レッスン回数を「総受講レッスン数÷8(週)」で算出し、平均レッスン回数ごとの人数を示したのが図4である。週1回未満の受講生が16人と最も多く、次に多いのは週6回以上7回未満の7人であった。

なお、週3回以上が理想的な回数であるとする、ほぼ半数の17人(45.9%)がこの基準

7 eラーニング(electronic learning, e-learning)とは、時間や場所を選ばずに自由に学習できる環境のことで、広義にはICT(Information and Communication Technology:情報通信技術)を活用した学習方法、狭義にはネットワークを利用して学習する環境を指す(宮地編、2009参照)。

8 詳しくは、<https://eikaiwasapuri.jp/>を参照のこと。

9 詳しくは、<http://www.newton-jp.com/>を参照のこと。

10 本大学との学校契約のため、時間の許す限り、1日に何レッスンでも受けられる。

11 受講した学部生は、それぞれ37人、22人、15人であった。

12 専攻別の内訳は、声楽専攻が2人、器楽専攻が33人、作曲指揮専攻が1人、音楽教育専攻が1人であった。器楽専攻33人のうち31人がピアノあるいはピアノ演奏家コースの学生であった。

に達している。しかしながら、週1回未満が最も多いということから、高い学習意欲を持った学生でないと多くの回数をこなすことはむずかしいといえる。

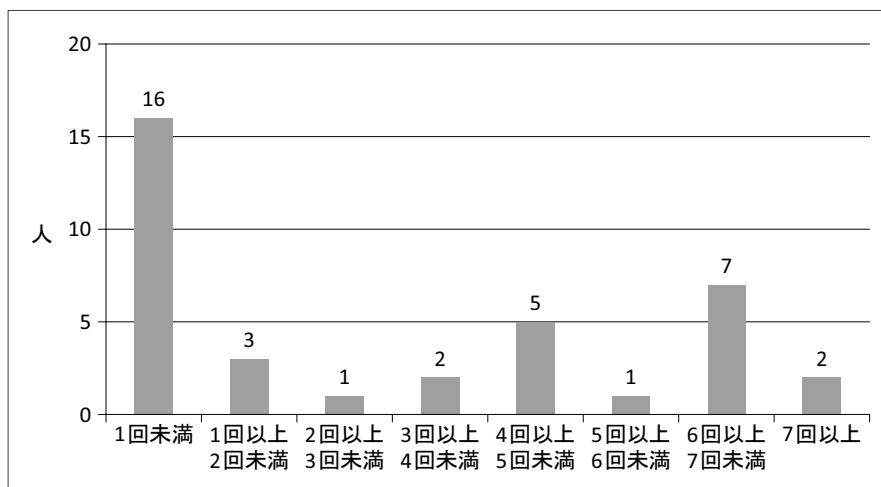


図4. 受講生の週平均レッスン回数 (N = 37)

3.3 「英会話サプリ (2015年6月～7月)」受講生への質問紙調査の結果および考察

2か月間にわたる「英会話サプリ」の受講終了時の7月末から8月初旬にかけて、受講生の率直な意見を聞くために、オンライン上のアンケートである Google フォームによる質問紙調査を実施した (付録1参照)。項目1から項目11までは「5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらとも言えない、2:ややそう思わない、1:まったくそう思わない」の5件法による回答であった。そして上記の順に5、4、3、2、1点と得点化した。項目5、8、9は逆転項目のため、配点は反転させた。項目12と項目13は記述式の回答であった。

本質問紙の有効回答数は18人、有効回答率は48.6% (18/38) であった。回答結果を表3に示す。全体として、平均値が4以上の項目が多かった。最も高い平均値を示したのは項目9「英語を話すことの抵抗が増した (逆転項目)」 ($M = 4.79, SD = .61$) であり、英語を話すことの抵抗が減ったと感じた学生が多かったことがうかがえる。

しかし、項目3「英語を話す力が伸びた」に関しては、平均値が3.95 ($SD = 1.19$) と、他に比べてやや低かった。これは、2か月間という短い期間であったため、あるいは個人の受講レッスン回数が少なかったため、スピーキング力の向上が実感できなかった可能性がある。

また、平均値が最も低かったのは項目6「英語の文法の力が伸びた」 ($M = 3.26, SD = 1.07$) であった。会話中心のレッスンであったため、文法の力については他の能力と比べて身についたという実感がなかったものと思われる。

表 3. 質問紙項目 1～11 の回答結果 (N = 18)

		平均値 (M)	標準偏差 (SD)
項目 1	レッスンの内容には満足した。	4.32	1.13
項目 2	先生の教え方には満足した。	4.21	1.32
項目 3	英語を話す力が伸びた。	3.95	1.19
項目 4	英語を聞く力が伸びた。	4.05	1.15
項目 5	英語の語彙 (単語の数) が減った。(逆転項目)	4.37	0.74
項目 6	英語の文法の力が伸びた。	3.26	1.07
項目 7	英語の発音がよくなった。	3.84	1.18
項目 8	英語学習の意欲が減った。(逆転項目)	4.63	0.67
項目 9	英語を話すことの抵抗感が増した。(逆転項目)	4.79	0.61
項目 10	今回は楽しく英語を学ぶことができた。	4.42	1.09
項目 11	機会があればオンライン英会話を続けてみたい。	4.42	1.23

次に、自由記述の項目 12 と項目 13 に対する回答について述べる (付録 2 参照)。ここでは主な回答に焦点を当てて述べる。

項目 12 (「あなたにとって英会話サプリの良い点は何でしたか?」) については、先生が親しみやすい、英語に慣れたなどの肯定的な回答が多かった。一方、項目 13 (「あなたにとって英会話サプリの悪い点は何でしたか?」) については、先生によって指導力の差がある、キャンセルが 1 時間前しかできないこと、スカイプの不具合等を指摘するなどの否定的な回答があった。

以下では、「英会話サプリ」によって受講生のスピーキング力に伸びがみられるたかを、スピーキングテストを使って行った調査結果について述べる。

3.4 「英会話サプリ (2015 年 6 月～9 月)」受講生のスピーキング力の調査

3.4.1 本調査の概要

本調査の目的は、「英会話サプリ」を 4 か月間 (2015 年 6 月～9 月) 受講することによって、スピーキング力がどのくらい伸びたかを、スピーキングテストである Versant Speaking Test により検証することである。本調査の参加者は、筆者が任意に選んだ、受講開始時において英検準 2 級または 2 級を取得していた 5 名である。本調査の方法としては、この 5 名に対して受講前 (5 月末)、開始 2 か月後 (7 月末)、開始 4 か月後 (9 月末) に実施した同テストの点数をそれぞれ比較する。同テストを採用した理由は、「英会話サプリ」のようなオンライン英会話プログラムの効果を測定するには、スピーキング力の測定に特化したテストが適切であると考えたからである。

3.4.2 スピーキングテスト (Versant Speaking Test) の実施

本テストは、固定電話で受験し、音声認識システムおよび自動採点により点数が算出される、

英語のスピーキング力を測るテスト(試験時間約15分)である¹³。テスト内容は、音読(Reading)が8問、復唱(Repeat)が16問、質問(Questions)が24問、文の構築(Sentence Builds)が10問、話の要約(Story Retelling)が3問、自由回答(Open Questions)が2問である¹⁴。

テストの点数は、総合(Overall)と4つの下位区分である文章構文(Sentence Mastery)、語彙(Vocabulary)、流暢さ(Fluency)、発音(Pronunciation)で算出される。「総合」も4つの下位区分もそれぞれ20点から80点までの80点満点で評価される¹⁵。なお、本稿では「総合」の点数に絞って述べる。

このテストでは、「総合」の点数に加えて、CEFRレベルも示される。CEFRとは、欧州評議会(Council of Europe)が作成した「ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages)」のことである。このガイドラインは、外国語学習者が能力別に何ができるかを‘Can Do’ descriptors (Can do 記述子)に基づいて示したもので、ヨーロッパを中心に使用されている。

CEFRでは、下から上のレベル順に、A1・A2 (Basic User: 基礎段階の言語使用者)、B1・B2 (Independent User: 自立した言語使用者)、C1・C2 (Proficient User: 熟達した言語使用者)の6レベルに分かれている¹⁶。以下の表4は、Versant Speaking Testの「総合」の点数とCEFRのレベルの対応表である¹⁷。

表4. Versant Speaking Testの「総合」の点数とCEFRの対応表

	CEFRのレベル	Versantの「総合」の点数
Proficient User (熟達した言語使用者)	C2	79-80
	C1	69-78
Independent User (自立した言語使用者)	B2	58-68
	B1	47-57
Basic User (基礎段階の言語使用者)	A2	36-46
	A1	26-35
	<A1	20-25

3.4.3 本調査の参加者の内訳

本調査の参加者は、1年生2人、2年生2人、4年生1人の計5人であった。また、受講開

13 Versant Speaking Test についての詳しい情報は、<https://www.Versant Speaking Test.jp/> を参照のこと。

14 自由回答(Open Questions)は採点されない。また、各セクションの最初の1問は、練習として扱われるため採点されない(Pearson Education, Inc., 2008 参照)。

15 「総合」は、内容(content)と話し方(manner)それぞれ50%の比重で評価される。比重の内訳は、内容を構成する「文章構文」が30%、「語彙」が20%、話し方を構成する「流暢さ」が30%、「発音」が20%である。詳しくは、Pearson Education, Inc. (2008) および <https://www.Versant Speaking Test.jp/faq/> を参照のこと。

16 詳しくは、http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/cadre1_en.asp/ を参照のこと。

17 詳しくは、<https://www.Versant Speaking Test.jp/speaking/> を参照のこと。

始時において取得していた英検は、準2級取得者が3人、2級取得者は2人であった(表5参照)。

表5. 参加者の学年と英検取得級

学生	学年	英検取得級
A	1	準2級
B	1	準2級
C	2	2級
D	2	準2級
E	4	2級

3.4.4 参加者の受講レッスン回数

本調査の参加者である学生A、B、C、D、Eの受講レッスン回数を表6および図5に示す。Aは最初の2か月(6月～7月)で64回、次の2か月(8月～9月)で75回レッスンを受講しており、それぞれの期間において最も多くレッスンを受講していた。各2か月間を60日とすると、ほぼ毎日1回受講している計算となる。

しかし、A以外の4人の回数については、最初の2か月(6月～7月)と比べ、次の2か月(8月～9月)で、Eはやや減り、B、C、Dは大幅に減っていた。

表6. 参加者の受講レッスン回数

	A	B	C	D	E
6月～7月	64	37	52	50	50
8月～9月	75	13	25	10	35
計(6月～9月)	139	50	77	60	85

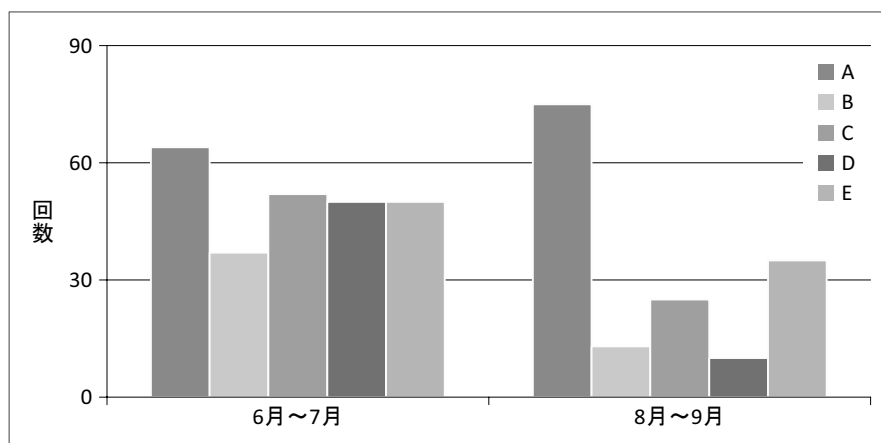


図5. 参加者の受講レッスン回数

3. 4. 5 参加者のスピーキングテスト (Versant Speaking Test) の結果および考察

Versant Speaking Test の「総合」の点数およびそれに基づく CEFR レベルを表 7 に、「総合」の点数の折れ線グラフを図 6 に示す。

表 7. 参加者の Versant Speaking Test の「総合」の点数と CEFR レベル

	A		B		C		D		E	
	点数	CEFR	点数	CEFR	点数	CEFR	点数	CEFR	点数	CEFR
受講前 (5 月末)	45	A2	34	A1	34	A1	32	A1	34	A1
受講 2 か月後 (7 月末)	48	B1	34	A1	39	A2	32	A1	35	A1
受講 4 か月後 (9 月末)	55	B1	31	A1	36	A2	32	A1	37	A2

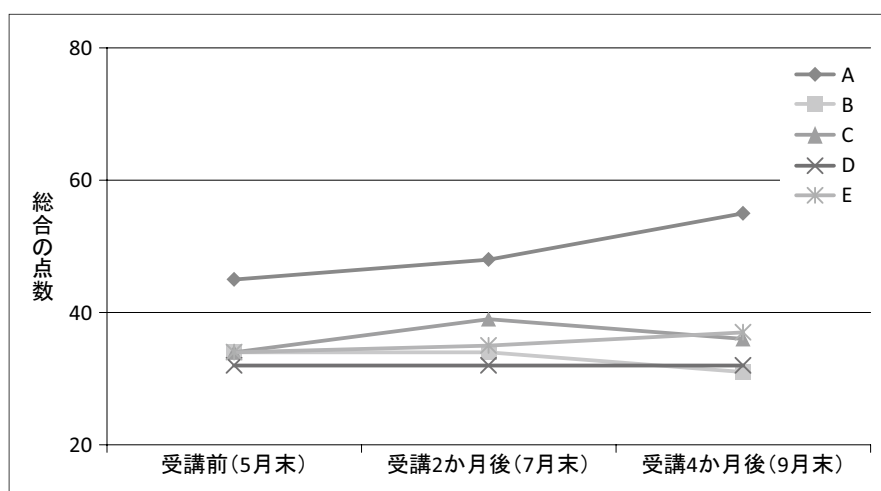


図 6. 参加者の Versant Speaking Test の「総合」の点数

Versant Speaking Test の「総合」の点数 (レンジ: 20-80) で、受講前と比べて受講 4 か月後に点数の上昇がみられたのは A、C、E の 3 人であった。A は 10 点、C は 2 点、E は 3 点上がった。しかし、B は 3 点下がり、D は全く差がなかった。CEFR のレベルでも、A、C、E に 1 レベルの上昇がみられた。しかし、B と D には変化がみられなかった。

以上の点数の増減の解釈にあたっては、Versant Speaking Test を事前・事後テストとして使った先行研究を参考にすることができる。例えば、清水・桐村・野澤 (2014) は、経済学部 46 名 (主に 1、2 回生) に対して、英語圏の短期留学 (4 ~ 5 週間) の事前と事後に同テストを実施した結果、事前テストの平均点は 34.68 ($SD = 4.07$)、事後テストの平均点は 38.13 ($SD = 5.21$) となり、有意差があったと報告している。また、飯田 (2014) は、留学が義務付けられている学科の学生に実施した同テストにおいて、留学前の 2 年次学生 19 人の平均点は 39.5 ($SD = 4.5$)、1 年間の留学後の 3 年次学生 32 人の平均点は 46.4 ($SD = 7.8$) であったと報告している。

これらの研究からは、単純に平均点だけでみると、4～5週間の短期留学で3.45点、1年間の長期留学でおよそ6.9点の上昇が期待できるといえる。こう考えると、Aが4か月間で10点もの点数の上昇を見せたことは特筆に値する。上で述べたように、Aの4か月間の受講レッスン回数は139回であり、時間に直すと57.9時間（139回×25分＝3,475分）となる。つまり、Aはかなりの時間数をこなしていたために、点数の上昇の幅が大きかったと考えられる。

4 おわりに

今回は、全学的に導入した英語外部試験の結果からの考察ではないため、本大学全体の英語力を推定するには限界があるものの、本大学の学生のおよその英語力を把握することができたといえる。2013年度に学生74人に実施したVELC Testの結果から、TOEIC予測点数の平均値は428.04点で、82.4%の学生が250～495点、すなわち500点未満の範囲に収まっていたことが明らかになった。また、2008年度から2014年度にかけて希望者に対して実施したTOEIC（IPテスト）の平均値は、431.50～506.30点の範囲にあることも分かった。このように全学学生の英語力を客観的に測定することは、英語教育のカリキュラムを検討する上で重要である。そのため、今後は日本の多くの大学が全学規模で実施している英語外部試験やプレイスメントテストの導入が望まれる。

また、本調査を通して、英会話サプリが、正規の授業外に自ら積極的に英語を学習したいという学習意欲の高い学生にとって役立つプログラムであることも示された。現在の英語力がCEFRのA1・A2（基礎段階の言語使用者）レベルにある学生にとっては、「英会話サプリ」のようなオンライン英会話プログラムは適していると考えられる。このことは、6月～7月のコースの受講生が、質問紙の回答において、英語を話すことの抵抗が減ったと回答していることや、8月～9月のコースへと継続した者が半数以上（37人中19人）いたことからもうかがえる。

さらには、6月～9月の4か月間受講した5人に対して実施したスピーキングテスト（Versant Speaking Test）の結果から、5人中3人にCEFRにおいて1レベルの上昇がみられた。また、その中で、学生Aのように、「総合」の点数において、45点（CEFRのA2レベル相当）から55点（CEFRのB1レベル相当）へと10点上がった受講生がいたことは特筆に値する。このことは、レッスン回数をこなすことによってスピーキング力が伸びる可能性があることを示唆している。なお、この5人はさらに「英会話サプリ」を続けているので、今後も同テストによる効果検証を継続して実施する予定である。

最後になるが、英語に対する高い学習意欲をもったより多くの学生に、本稿で扱ったようなプログラムを受講させ、まずは基礎的な英語力を身につけさせ、次に、より高いレベルのプログラムを受講させることによって、学生の英語力が少しでも高まることを願ってやまない。

参考文献

- 飯田毅 (2014) 「英語圏長期短期留学プログラムが学生の英語力と情意面に及ぼす影響」科学研究費助成事業研究成果報告書 (23520773) https://kaken.nii.ac.jp/pdf/2013/seika/CFZ19_9/34311/23520773seika.pdf/ (閲覧日：2015年10月1日)
- 岸学 (2005) 『SPSS によるやさしい統計学』 オーム社
- 酒井麻衣子 (2004) 『SPSS 完全活用法—データの視覚化とレポートの作成』 東京図書
- 坂本美枝・半田純子・宍戸真・阪井和男 (2014) カランメソッドを用いた英語発話練習：オンライン・マンツーマン指導、『第30回日本教育工学会全国大会講演論文集』、831-832.
- 清水裕子・桐村亮・野澤健 (2014) 経済学部英語圏短期留学プログラムにおけるスピーキングテストの実施とその結果報告、『立命館高等教育研究』、14, 91-102.
- 田原良子・堀江美智代・森永初代 (2004) 習熟度別クラス編成に関する考察 (4)、『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』、34, 129-142.
- 豊田秀樹 (編) (2015) 『紙を使わないアンケート調査入門—卒業論文、高校生にも使える—』 東京図書
- 宮地功 (編) (2009) 『eラーニングからブレンディッドラーニングへ』 共立出版
- Pearson Education, Inc. (2008). Versant Speaking Test English Test: Test description and validation summary. [http://www.Versant Speaking Testtest.com/technology/Versant Speaking TestEnglishTestValidation.pdf/](http://www.VersantSpeakingTest.com/technology/VersantSpeakingTestEnglishTestValidation.pdf/) (閲覧日：2015年10月1日)

「英会話サプリ」受講後アンケートのお願い

以下の項目にあてはまるものをひとつ選んでください。あなたのプライバシーは厳格に守られますので、正直に回答してください。

*必須

あなたの年齢を書いてください。*

例: 19

あなたの名前を記入してください。*

例: Yuka Aiuchi

あなたは何年生ですか？*

- 学部1年生
- 学部2年生
- 学部3年生
- 学部4年生
- 学部5年生以上
- 修士課程1年生
- 修士課程2年生
- 修士課程3年生以上
- 博士課程1年生以上
- 教職員

あなたの性別は何ですか？*

- 女
- 男

あなたは一週間に平均何回レッスンを受けてきましたか？*

- 1回
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回以上

各項目をよく読んで、あなたにもっともあてはまるものをひとつ選んでください。*

	まったくそう思わない	ややそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	強くそう思う
レッスンの内容には満足した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
先生の教え方には満足した。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語を話す力が伸びた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語を聞く力が伸びた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語の語彙(単語の数)が増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語の文法の力が伸びた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語の発音がよくなった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語学習の意欲が増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
英語を話すことの抵抗感が減った。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
今回は率しく英語を学ぶことができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
機会があればオンライン英会話を続けてみたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

あなたにとって英会話サプリの良い点は何でしたか？*

具体的に思いっだけ書いてください。

あなたにとって英会話サプリの悪い点は何でしたか？*

具体的に思いっだけ書いてください。

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

100%: 完成しました。

付録2：質問紙の項目12・13の回答

項目12「あなたにとって英会話サプリの良い点は何でしたか？具体的に思いつくだけ書いてください。」

〈レッスン内容に関して〉

会話だけでなく、スベルや文章を書く力が身についた。／英語に慣れることができる。／語彙が増える。(思ったことや自分の気持ちに適した言葉が分かるようになった)／レベルが上がった時に、同じ内容のもっと高度なテキストを使うのもとても効果的だと思います。(例：AAAテクニック)／日常の出来事も話せる。／話せるようになりたいことも聞ける。／一人で机に向かって勉強するよりもずっと気軽に英語に取り組めるところ。

〈レッスン講師に関して〉

先生がとても親しみやすく、毎回レッスンが本当に楽しかったです！たくさん褒めてもらえるし、英語を話すことへの抵抗感がなくなりました。／テキストを丁寧に見ていただけるのに加えて、レッスンの中で先生たちとフリートークができる点。その日自分の伝えたいことに、分からない単語や表現法があれば調べたので語彙も増えた。／最初は初対面だから緊張するけど、だんだん先生にも慣れてきて、Skype上ではなくて、実際に会って話したいと思う。／同じ先生に何度も習えるので、先生と意思疎通ができるようになりたくて学習意欲が高まりました。／たくさん先生の先生から自分にあった先生を選べる。／明るい先生が多く、分からなくても気軽に教えてくれる。／先生が楽しくて、間違えても優しく教えてくれる。／教材が分かりやすいですし、先生方が皆さん優しく楽しく教えてくださいました。／効率よく授業が進められ、自分にとっての課題がよく分かった。／先生たちも楽しく授業を展開してくれて学びやすかった。／分からなければ何度でも質問できる。／初めて聞く単語をチャットに書いて説明してくれる先生がいた。／1対1だから自分のペースで進んでくれるから分かりやすい。／先生が指名できる点。／先生たちがみんなやさしい点。／優しい先生が多く、英語を話すことへの抵抗感がとても減りました。どンドン話そうと思えてきました。勉強以外の話題も沢山出てそれも楽しかったです。／英語を沢山話せるところ。レッスン時間が幅広いこと。／外国人と話すことに以前より慣れることができた。

〈レッスン予約・キャンセルに関して〉

24時間好きな時間に予約ができる点。／自分の好きな時間に好きな数だけレッスンを受講できる。／家でできる。／自分の空いてる時間に予約できること。／予約もキャンセルも楽にできる点。／1日に何回も受講できる。／朝早くから遅くまで受講できる。／予約が簡単にできる。／好きな時間に何回でもできる。

項目13「あなたにとって英会話サプリの悪い点は何でしたか？具体的に思いつくだけ書いてください。」

〈レッスン内容に関して〉

もう少し文法的なことを勉強できればよかったかなと思う。(それを学んでどう使うかというような勉強)／レベルごとに二回あるスピーキングテストでスラスラ言葉が出てこなくても合格をもらえてしまうところ。(気軽にできるので良い点とも言えますが)

〈レッスン講師に関して〉

先生によって指導の細かさに差がありすぎる。／とりあえず喋るだけでまったく文章を直してくれなかったり、直された単語などでも良く分からずに進むことがある。

〈レッスン予約・キャンセルに関して〉

キャンセルが1時間前しかできないこと。／キャンセルが1時間前までしかできず、忘れてしまうと連絡手段がない。／一時間を過ぎてキャンセルできるようになればよりいいなと思いました。／予約は15分前までできるが、15分前だとほとんど埋まっていてできない。／やりたい時間に先生が不足していたりすること。／急用が入ってもキャンセルできなかったこと。／以前に比べ、予約で埋まっていることが多く思うようにできなかった。

〈ネット回線に関して〉

スカイプなので画質が悪かったり、音が途切れたりすることもある。／電波が悪く、画像が乱れたり音声途絶えたりした。／たまにスカイプの音質などがとても悪い時があることです。／Wi-Fiの接続状況によってはレッスンが受講できなかったり、音質が悪かった。／接続が悪く、Skypeが繋がらないとレッスンにならなくなってしまう。／スカイプが繋がりにくい。／スカイプの接続状況がよくない時がある点。

〈その他〉

特にありません。(同回答他2件)